

平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について

1. 平成28年度総合教育会議における議論

①総括された5つの視点

- 1) 滋賀の強み
- 2) 授業改善の推進
- 3) 系統的な教育の実施
- 4) 社会(企業)との連携・接続
- 5) 地域との連携

<主な意見>

- ・子どもたちに豊かな教育環境を提供するのがインクルーシブ教育
- ・インクルーシブ教育のシステムだけでなく、人の寛容さが共生社会には必要
- ・教員が児童生徒一人ひとりと向き合う時間の確保が必要
- ・教員同士の情報共有がとても大切
- ・引き続き「学ぶ力の向上」についての議論は必要
- ・一人ひとりで学びの進み具合が違うので、それぞれに寄り添った多様な学び方が必要
- ・地域や家庭がすべきことも含め学校がすべて対応すべきと考えている人がある
- ・滋賀には身近に多くの文化財や歴史がある。これらの環境の中で学ぶことが「滋賀らしさ」につながるのではないか。 等

②次年度に向けた論点等

- ・子どもたちの多様性に寄り添う教育とは何か。
- ・教育振興基本計画における柱3「すべての人が共に育ち、社会を創る生涯学習を振興する」に関する議論が薄かったのではないかな。

2. 平成29年度総合教育会議の方向性

◆昨年度を踏まえた議論の方向性

「子どもたちの多様性に寄り添う教育とは何か？」について、下記4つの視点をもとに議論を深める。

1) 系統的な教育の充実

→ 幼児教育から高校教育段階まで一貫して見守ることのできる土壌づくりをどうするか。

- ・子どもたちの学びの習熟具合や学習するスピードの違いによる多様性
- ・小学生で伸びる場合、高校生で伸びる場合など成長段階による多様性 等

2) 特別支援教育の推進

→ 障害のある子ども、ない子どもが共に学び、地域で生きていくための力を身につける教育環境づくりはどうあるべきか。

- ・障害のある子どもとない子どもの多様性
- ・障害のある子どもたちが持つ特性の多様性 等

3) 滋賀の地域性を生かした学びの創出

→ 「滋賀らしさ」をはぐくむために、本県の自然や歴史、文化を身近に感じる滋賀ならではの地域性を生かした教育機会を充実させる取組みをどう進めるか。

- ・生き物が好き、歴史が好き、音楽が好きなど興味、関心の多様性
- ・滋賀と言えば「琵琶湖」、滋賀と言えば「ふなずし」など、魅力を発信する場合の滋賀らしさの多様性

4) 学校と家庭・地域の連携

→ 学校、家庭、地域、企業が連携した「地域社会」における教育活動をどう充実させるか。

→ 地域の定義の再確認が必要

- ・育った学校、家庭、地域等による多様性
- ・都心部や地方など地域特性の違いによる多様性 等

☆ 限られた人材と予算のなかでどのように今後それぞれ進めていくか。

資料 1

3. 平成29年度総合教育会議のテーマ(案)

<第1回>

○平成29年度総合教育会議の進め方について

→ テーマ(案)について、追加すべき項目や修正すべき点について議論

以下、第2回目以降のイメージ(たたき台)

<第2回>

○幼児教育段階から小学校段階等への系統だった校種間の接続

- 一人ひとりの子どもたちの習熟度に合わせた教育
- 学ぶ力向上のための施策の推進
- 新学習指導要領への対応

<第3回>

○地域で共に生きる特別支援教育の推進

- 障害のある子ども、ない子どもに豊かな教育環境を提供するためのインクルーシブ教育の推進

<第4回>

○滋賀ならではの文化財や歴史を通じた滋賀の魅力を発信できる力の育成

- 滋賀への興味・関心を伸ばす学習機会の充実
- 滋賀の魅力を発信する力育成

<第5回>

○家庭・地域に密着した学校教育のあり方

- 家庭・地域と学校との連携・協働
- 地域企業との連携によるインターンシップの推進
- 教員が子どもたちと向き合う時間の充実

<第6回>

○平成29年度総合教育会議の総括

※会議の後半からは、次期「滋賀の教育大綱」へ盛り込むべき要素も踏まえながら議論を進め